

豫以首を他人小謀之人たろうと願まされし氣を生慙し。離情感氣の  
 首切願望。彼常標を脱取て再三志を成推戴に保津城外の合戦に編  
 坂基内康治が赤井悪右衛門と毆打たりと呼ぶる聲も赤井に殘兵或ハ  
 守城の士軍かりひくに自殺して終に落城たりたり。是に依り  
 先秀ハ丹波一國を平均おし。脇坂等を播磨へ歸し先秀秀右衛門方より  
 遠征伸を信長公。精しく言状まつせしむ。本年より約束ありと云く。  
 丹州六郡三十万石。今ハ八万。是を先秀又賜賜。實に莫大の恩録に  
 ぞ。播那の立身なれば君恩の少く希しとあり。是に於て不然ハあてて心中大  
 に信長を怨む。情を以て大將ありと。密に譚話あるもあつた。備前播磨  
 の探題職羽柴統元も秀右衛門平山の城小在任して別所家征伐に謀  
 略を後く之夫し。在りける。丹波一國平均し。別所のとあり翼を失

此ハ三木城近日に滅亡ありんと時を漏し遠等し。是も備前北河内  
 和泉守直家ハ去ぬる年より東西の織田毛利の蹀躞を漏し。強弱を試て在  
 たりしが。上月境の始終といひ。秀右衛門度度の軍方尋常ありぬ。是に依り  
 以。草樹も靡く威風に。一々。丹州の軍も九分ハ降服せし。かどにたて  
 も右も羽柴ありて。恃據を以て人外にあり。心を決して織田方に降  
 参を遂家國を全ふせむ。と懐ひ起。家臣を哀め。許諾せし。食との  
 一議に歸し。自ら由。誰を以て。信長一使士とありて。謂投人と。譚する  
 時境。是も備前北河内の高夫。魚屋。九郎といふものあり。平日浮回家  
 へ出入して。軍用金おと調達し。たる。家小男子あり。され。泉別堀の  
 小西如清といふ者の子を乞ふ。養子とし。名を讓里と。九郎と  
 號をせ。今年廿一歳あり。強氣にして力強く。色白く。品美く。其